

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2792 号	氏名	久原 孝一郎
審査担当者	主査	西 昭徳	(印)
	副主査	石竹 達也	(印)
	副主査	患 紘 英 昭	(印)
主論文題目： The Importance of a Prior Psychiatric Examination in Pegylated Interferon and Ribavirin Combination Treatment for Chronic Hepatitis C (C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン併用療法における治療開始前の精神科受診の重要性)			

審査結果の要旨 (意見)

慢性C型肝炎のペグインターフェロン α ・リバビリン併用療法において、うつ症状などの精神症状を呈して薬物療法が中止となる症例がある。本研究は、治療開始前に精神科を受診させることにより、精神科的副作用の発現率に差は認めないものの、ペグインターフェロン α ・リバビリン併用療法の治療完遂率を有意に改善できることを明らかにした。治療開始前の精神科受診により、ハイリスク群に対する抗うつ薬予防投与や精神症状出現時のスムーズな精神科受診が可能となることが治療完遂率の改善に寄与すると考察されている。慢性C型肝炎のインターフェロン療法において、治療開始前の精神科受診が有用であることを示した臨床的に意義のある学位論文である。

論文要旨

C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン併用療法において、治療開始前に精神科を受診することが、治療完遂率を増加させるかについて、検討を行った。当院を含む関連6施設において、ペグインターフェロン $\alpha 2b$ ・リバビリン併用療法を行った535症例を対象とした。これらの症例を、インターフェロン療法開始前に精神科を受診したA群(223例)と受診しなかったB群(312例)の2群に分け、これら2群間での精神科的副作用発現率、治療完遂率を分析した。その結果、精神科的副作用による中止率は、A群がB群より有意に低かった。中止理由の中で、精神科的理由で中止した割合は、A群がB群より有意に低かった。精神科的副作用が発現した症例での治療完遂率は、A群がB群より有意に高かった。以上の結果から、C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン併用療法において、治療開始前に精神科を受診することは、治療前に患者の状態を把握し、そのことがその後の精神科診療にも影響し、治療完遂率を高めると考えられる。